（別紙４）

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	はれのひ			
○保護者評価実施期間	2025年2月1日	～	2025年2月28日	
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	7	（回答者数）	2
○従業者評価実施期間	2025年2月1日	～	2025年2月28日	
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	3	（回答者数）	1
○訪問先施設評価実施期間	2025年2月1日	～	2025年2月28日	
○訪問先施設評価有効回答数	（対象数）	5	（回答数）	3
○事業者向け自己評価表作成日	7年　3月　27日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	専門スタッフが子どもの特性や発達状況に合わせたオーダーメイドの支援を実施。		
2	子どもが安心して過ごせるよう、クラスや活動の環境調整を提案。	保育者や先生が無理なく実践できるアドバイスを心がけている。	他の訪問支援員の成功事例を参考に、実践的なアプローチを増やす。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	訪問支援員によって支援の質にばらつきがある。	支援内容の質の向上	訪問支援の目的や目標が明確であるか見直し、個別支援計画と連携を強化する。支援方法やアプローチの工夫（例：遊びを通じた支援、具体的な指導方法の共有）。訪問先の施設職員との情報共有の頻度・方法を改善し、連携を深める。
2	業務が重複して訪問先の報告や保護者に早く支援の内容を共有できていない。また内容が断片的でどのように園や家庭で支援に活かせばいいかわからない。	記録・評価の充実	訪問支援の記録をより具体的にし、振り返りをしやすくする。保育所職員や保護者のフィードバックを積極的に取り入れる。改善のためのPDCAサイクルを意識し、継続的な見直しを行う。
3	保護者への報告が報告書だけのやり取り	保護者との連携	保護者とのコミュニケーションを強化し、支援方針の共通理解を深める。保護者向けの情報提供や相談の機会を増やす。